

① 人口減少が影響を及ぼし始めている具体的な事例を、記事から挙げてみましょう。

「つのむれ会」の活動や塚脇地蔵講

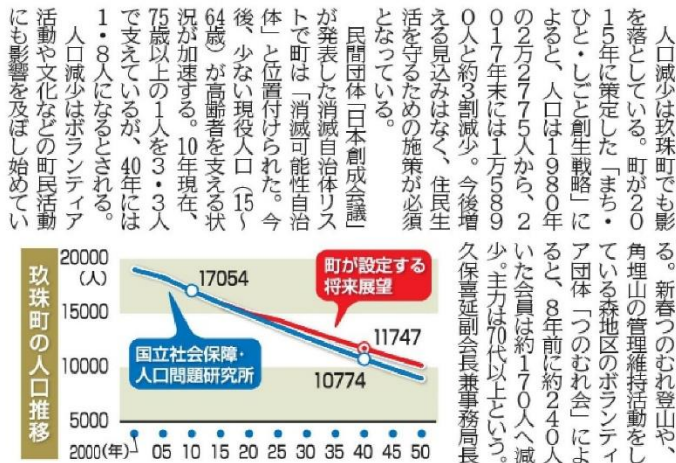
② 玖珠町は予想される人口減少時代に、どのように臨もうとしているのでしょうか。グラフも参考にしながら、力を入れることも含めてまとめましょう。

減少率を抑えるため、教育、福祉、産業などの施策を重点的に打つ。

③ あなたなら何があったら、大人になっても地元に住みたいと思いますか？ 考えてみましょう。

ハードとソフト、あなたが欲しいのはどちら寄りですか？

## 止まらぬ若者層流出



あすへの進路  
玖珠町長選を前に

<< 下 >>

## 生活を守る施策が必須

「1」は「肉体的にきつくなつてきている。このままで10年後の活動は難しくなるだろう」と話す。塚脇地区で8月下旬に開かれる塚脇地蔵講、各自治区の地蔵尊に見立て細工を並べて供養する祭りで、今年130周年を迎える。ただ戸数減少などにより、参加するのは最盛期から3減の8自治区。かかわる住民も徐々に減っている。山上

「誠治実行委員長(84)は「祭り消滅の危機。活気が失われ、地域衰退につながるかねない」と危惧する。県のデータによると、町の合計特殊出生率(12.16)は、町が誕生して60年余り。次の時代をどうデザインし、歩んでいくのか。リーダーが示す将来像や求心力に町民は注目している。(この連載は玖珠支局・白石宗史が担当しました)



新春子ども祭りの準備を進める「つのむれ会」のメンバー。主力は70代が担っている玖珠町森

年)は1.89と県平均1.61を上回る。しかし町内に大企業や大学などはなく、若年層の町外流出は止まらない。町は減少率を抑えることを方針とし、合計特殊出生率2.30、企業誘致による人口増100人などを目標としている。

町総合戦略室は「これから大変な時代を迎える。住民の満足度を向上させ、10、30年後を念頭に教育、福祉、産業などの施策を重点的に打っていく必要がある」と危機感を示す。